

# 集積回路化へのパラダイムシフト - 都市工業型学術都市の形成 -

## 00 敷地状況

### 1. 敷地現状

中川運河を囲むように工業が集積している。また、それらを囲むように都市部が道路を軸に住宅街を形成して大きく広がっている。



計画敷地

工業集積



## 2. 予測



## 3. 工業の歴史



## 4. 工業の現状



昭和8年に開削された運河の沿岸には工場が誘致され、住宅と工業が混在した工業市街地を形成していた。住宅都市が拡大していくことによって中川運河の工業は運河と共に衰退の一途を辿っている。

## 01 コンセプト

### 「集積回路としての建築」

中川運河のものづくりの結節点を計画する。ものづくりを核として、街のコンテンツや活動の場を建築内へと引き込み、立体的に構築する。個々として存在したものがネットワーク的に絡まり合っていくことで、互いを認識して都市が機能していく。



## 02 スロセス



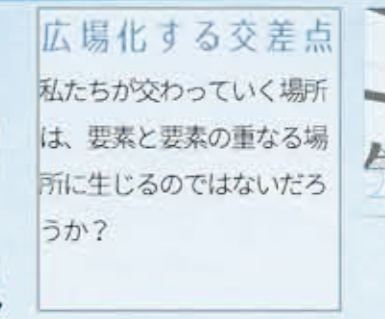
様々な人々が交わっていくことから考えた。ただ場所として存在するだけではない。人の交差点を考える。広場から考える



広場化する空間を街路と一体として計画する。街路が起き上がって建築化されることで、多様な広場の形を内包する。

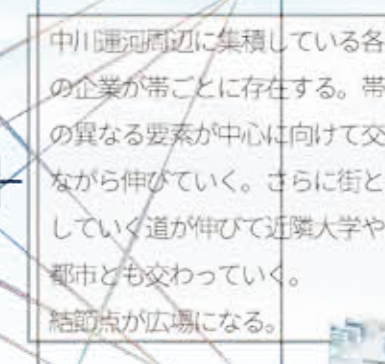


広場化する交差点 私たちが交わっていく場所は、要素と要素の重なる場所に生じるのではないだろうか？

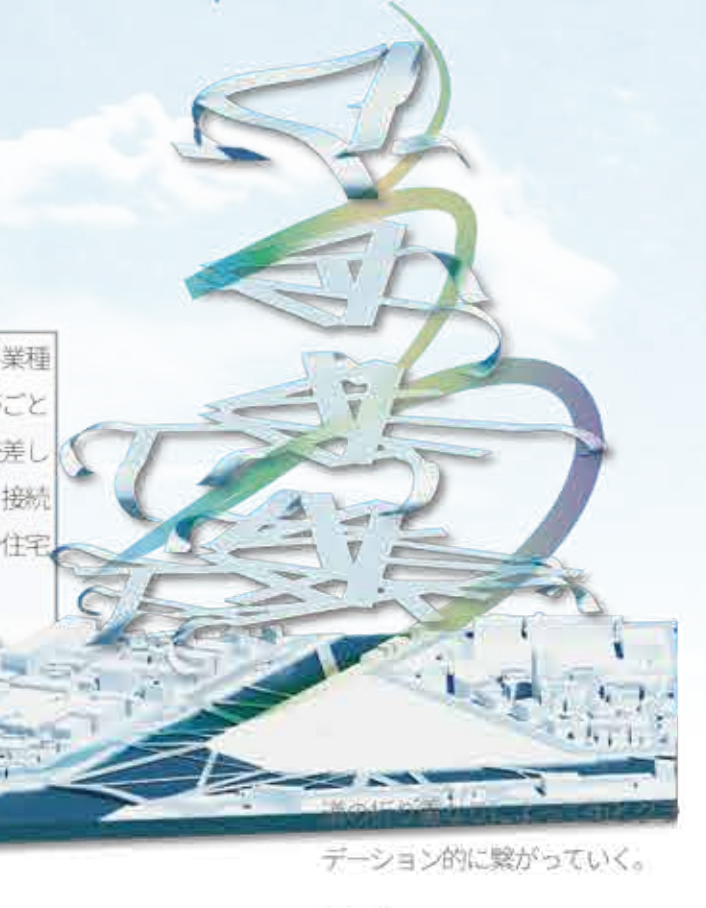


道で届く建築 都市に存在する要素が道として建築の中で重なり、混じり合っていく。都市の回路を集積させていく。

## 03 スロプログラム：帯ごとの産業と学生や都市との結びつき



中川運河周辺に集積している各産業の企業が帯ごとに存在する。帯ごとの異なる要素が中心に向けて交差しながら伸びていく。さらに街と接続していく道が伸びて産業大学や住宅都市も交わっていく。結節点が広場になる。



私たちの日常は何も見えない。  
私の通学路の横には工場や倉庫の壁が立ち並び、その奥に運河を閉じ込めている。その工場たちも今や衰退の一途をたどり、跡地には大量生産品の集合住宅が立ち並ぼうとしている。閉られた運河はこれから街に背中を向けるのだろうか？  
名古屋を交えてきた中川運河のこれからのものづくりの活路を考えた。  
中川運河の多様なものづくりの研究開発の集積する場を作る。ラボを中心として、研究室、図書スペース、ギャラリー、ホールを展開していく。  
私たちの日常を巻き込んでいくものづくりを考える場が、人々が運河へと目を向けに行く活路だと考えた。



GL Plan 1:1500